

令和3年度学校評価報告書

令和4年3月28日

北海道教育委員会教育長 様

北海道伊達緑丘高等学校長 須 藤 克 志

次のとおり令和3年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

(1) 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、学習習慣の確立を通して確かな学力の育成に努める。 (2) 基本的な倫理観や規範意識を身に付けさせるとともに、豊かな心や創造性の涵養に努める。 (3) 心身の調和的な発達を図るとともに、困難に立ち向かう自信と勇気のある態度の育成に努める。 (4) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、自ら進んで課題を解決しようとする態度の育成に努める。
--

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営 情報発信 働き方改革	人員が削減し、また引き続きのコロナ禍ではあったが、計画通りの学校運営が実施できた。働き方改革については、昨年度より進めることができた。	情報発信については、保護者や地域からも一定の評価をされている。閉校業務に向けた取り組みで、さらに忙しいと思うが、休めるときは休んでほしい。
改善方策	職員定数が減る中で業務内容の見直しと精選を図りつつ、伊達緑丘高等学校のレガシーについて発信することにより、生徒の意識向上を図り、学習活動の活性化につなげる。	
教育課程 学習指導	コロナの影響はあったが、行事等の見直しで教育課程は、ほぼ計画通り実施できた。「総合的な探究の時間」については、地域とのつながりを活かすことができ、充実した活動となった。進路実現に向けた家庭学習および基礎学力の養成は、今後も課題である。	「総合的な探究の時間」の取り組み内容はユニークであり、社会で通用する力にもつながっている。残り1年も工夫を重ねて継続する必要がある。引き続き、生徒の進路実現に向けて、努力し続けてほしい。
改善方策	ICTを積極的に活用し、授業改善を進め、学校教育全体を通して生徒に身につけさせたい力の育成に努めていく。さらに学び方や職員研修の充実により、学力向上を図り、生徒のキャリア形成に資する教育課程の実施に努める。	
教育相談 保健安全 いじめ対応	感染症対策や学校行事の変化等により、人間関係を適切に構築できず、心のケアが必要な生徒や特別な支援が必要な生徒が増加傾向にある。今後とも担任・学年団や養護教諭の対応のほか、スクールカウンセラーなど外部の人材を活用して個に応じたきめ細やかな対応する必要性が高い。	コロナによる影響で増加している支援が必要な生徒については、外部からは見えずらい部分もあるので、保護者はもちろん、関係機関と連携して対応してほしい。早期対応と、生徒1人1人に対応したきめ細やかな努力を継続してほしい。
改善方策	終わらない感染拡大を機に、人間関係に悩む生徒や不登校となる生徒は着実に増加しており、本校でも更なる対応が必要である。日常的な観察、家庭や外部機関との連携を深め、生徒のコミュニケーション能力や自己肯定感の向上を図るとともに事故の未然防止につながる円滑なコミュニケーションが図られるよう教育活動を充実させる。	
公表方法	学校Webページ P T Aだより 学校評議委員会	

- 3 添付資料
- ・令和3年度自己評価票・学校関係者評価票
 - ・令和3年度学校評価集計（職員と保護者・生徒）